

**感染対策における多職種チーム・地域連携と臨床検査技師の役割**

座長 : 田内 久道 (愛媛大学大学院医学系研究科 感染制御学講座)  
演者 : 具 芳明 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野)

感染対策における多職種チーム・地域連携と臨床検査技師の役割

◎具 芳明

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野

院内感染対策は多岐に渡っており、さまざまな専門性が必要とされる。多くの病院で長く取り組まれてきた感染対策チーム (ICT) の活動は、院内感染対策を大きく進める原動力となってきた。ICT は栄養サポートチーム (NST) や緩和ケアチーム (PCT) と並び、多様な専門性をもったスタッフによる多職種チーム医療の有効性を示してきた。

昨今は薬剤耐性 (AMR) 対策が注目されている。これまで ICT が中心となって取り組んできた感染伝播予防に加え、抗菌薬適正使用の推進が大きな課題となっている。多職種チームである抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: AST) が多くの病院に設置され、抗菌薬適正使用が推進されている。さらに、感染症対策における地域連携が強調され、各医療機関の ICT, AST が連携し、保健所や医師会とも協力して地域での感染対策の課題に取り組んでいくことが求められている。

このように院内感染対策は多職種連携、さらに地域連携へと広がっており、より深く視野の広い取り組みが求められるようになってきている。臨床検査技師がその専門性を発揮して感染対策に取り組むことの重要性が高まっている。

感染対策の多職種チームにおいて臨床検査技師の役割は大きい。正確な感染症検査は適切な感染対策の根幹である。臨床現場から適切な検体を得て、検査結果を適切に返すことは、診断と治療への寄与はもちろん、感染対策の観点からも極めて重要である。抗菌薬適正使用の観点からは、アンチバイオグラムの作成による初期治療の支援、適切な検査結果を迅速に返すことによる最適治療の支援など、検査の視点からの取り組みが欠かせない。地域連携においても病原体のサーベイランスや検査の適正化など、検査に関連した取り組みは活動の基本となる。ICT, AST の一員として臨床検査技師が専門性を活かし、院内感染対策や地域連携の場で活躍することへの期待は大きい。